



《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画
① 図書館システム(ソフトウェア)事業	クラウドサービスの利用により貸出管理、蔵書管理、レファレンス等の業務を行う。	図書館(3館)の蔵書冊数	冊	244,200	235,406	245,755	250,000
② 図書館オンラインポータルサイト「TooLi」使用事業	「TooLi」を用いて発注し、図書データの登録、管理する。	図書登録冊数	冊	11,160	11,066	9,375	10,000
③ 図書目録作成事業	図書館システムのデータベースに図書目録を作成する。	図書目録件数	件	6,092	5,685	5,717	6,000
④							
⑤							

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H23目標	H24目標	H25目標	H26目標
			H23実績	H24実績	H25実績	
1 図書館(3館)貸出冊数	貸出延べ冊数	冊	400,000	400,000	400,000	400,000
			389,782	360,538	354,978	
2 図書購入メールリクエスト及び貸出ネット予約合計件数	図書購入リクエストのメール件数に貸出ネット予約が行われた件数(ネット予約: H25年度9月～)	件		50	500	800
				74	621	

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	図書館の情報を管理するシステムであり、事業を廃止すれば、図書館運営に大きな支障をきたす。
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、役割が薄れていないか。	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	
有効性 (判定) C	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	
効率性 (判定) A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	貸出冊数が年々減少傾向にあるのには、社会情勢の変化や人口減少が少なからず影響を及ぼしている。ネット利用による貸出予約やリクエスト、レファレンス等のサービス利用の普及啓発を今後も継続する。
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	貸出冊数は、県内の上位を占めているが、人口減少や社会情勢の変化もあり微減は止むを得ないと考えることから、現状のまま継続する。しかし、魅力ある図書館づくりと各種サービスの利用啓発等に引き続き努めていく。
昨年からの見直し・改善状況【32】	特になし

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	今後は、学習室の充実を図り、利用者のニーズに応じていけるようにしていくことで、利用増加を目指す。	評価責任者 板倉 英一
------------------	--	----------------